



SAS[®] Viya[®] プラットフォーム: ライセンス

2025.12 - 2026.04

このドキュメントは、ソフトウェアの追加バージョンに適用される場合があります。このドキュメントを [SAS Help Center](#) で開き、バナーのバージョンをクリックすると、使用できるすべてのバージョンが表示されます。

ライセンス: 概要	2
ライセンス: インターフェイス	2
SAS Viya プラットフォームのライセンス用インターフェイス	2
新しいライセンスを適用する方法	3
概要	3
配置オペレーターを使用した更新	3
sas-orchestration コマンドを使用した更新	5
Kubernetes コマンドを使用したアップデート	5
viya4-deployment プロジェクトを使用した更新	6
Copilot のシークレットを更新	6
SAS Viya Copilot の認証情報とシークレットの設定	7
ライセンス: ライセンスを表示する方法(SAS Studio)	9
SAS プログラミングランタイムライセンス情報の表示	9
SAS Cloud Analytic Services ライセンス情報の表示	10
方法(CLI)	11
ライセンス: トラブルシューティング	12
Deployment Operator のカスタムリソースが大きすぎる	12

ライセンス: 概要

SAS ソフトウェアの使用は、ライセンスファイルによって制御されます。

ライセンスは配置アセットとともに提供されます。これらのアセットは my.sas.com から取得します。ライセンスを更新する場合は、my.sas.com の **Download Only License** ボタンを使用して、更新されたライセンスを取得します。

SAS Viya プラットフォームは、ライセンスを JSON Web トークンファイルとして提供します。

インストール中に、ライセンスは CAS インメモリコンピューティングエンジンと SAS プログラミングランタイム環境の両方に適用されます。新しいライセンスを適用して、新しい製品を有効にしたり、既存の製品の有効期限を延長したりできます。

ライセンス: インターフェイス

SAS ライセンス情報の管理および表示に使用できるインターフェイスがいくつかあります。次の表にこれらのインターフェイスを示します。網掛けは、それぞれがカバーする SAS ライセンス管理の相対的な量を示しています。

表 1 SAS Viya プラットフォームのライセンス用インターフェイス

●	コマンドラインインターフェイス	(読み取り専用)SAS ライセンス情報を照会できるコマンドラインインターフェイス。
●	SAS Environment Manager	(読み取り専用)SAS ライセンス情報を表示するために使用されるグラフィカルなエンタープライズ Web アプリケーション。

新しいライセンスを適用する方法

概要

重要 プロバイダーテナントの管理者のみが**ライセンス**ページを表示できます。

新しいライセンスを適用すると、すでに配置されているオフリングの有効期限が延長されます。注文に利用可能な新しいライセンスがある場合、**Software License Renewal Confirmation** メールが送信され、通知されます。このメールは、新しいライセンスをダウンロードできる My SAS(my.sas.com)へのリンクです。

これらの手順は、ソフトウェアを更新せずに新しいライセンスを適用するためのものです。ソフトウェアをパッチまたはバージョンで更新し、新しいライセンスも適用する場合は、[“Pre-update Checklist” \(SAS Viya Platform Operations: Updating Software Tasks\)](#)を参照してください。

ライセンスを更新するには、ソフトウェアを再配置する方法に一致する一連の手順を使用します。

重要 SAS Viya プラットフォームソフトウェアの新しいライセンスを適用し、SAS Viya Copilot をアクティブ化している場合は、Copilot のシークレットも更新する必要があります。シークレットを更新する手順については、[“SAS Viya Copilot の管理” \(SAS Environment Manager: ユーザーガイド\)](#)を参照してください。

注: ライセンスを更新した後にポッドを再起動する必要はありません。この記述は、このセクションで説明するすべての方法に当てはまります。

配置オペレーターを使用した更新

注: オペレーターでライセンスを更新するには、ユーザーはオペレーターで配置する必要があります。

注: SAS Viya プラットフォーム配置オペレーターを使用してライセンスを適用するには、SAS Viya プラットフォームを停止する必要があります。ライセンスを適用するときにソフトウェアを更新するには、より長い時間停止する必要があります。

重要 secretGenerator の kustomization.yaml ファイルにライセンスセクションがある場合、そのライセンスは、配置アセットに含まれるライセンスに関係なく使用されます。次回ソフトウェアを更新するときは、更新された配置アセットで提供されるライセンスが使用されるように、必ず kustomization.yaml ファイルを編集してください。

重要 必ず kustomization.yaml ファイルでライセンス情報を確認し、削除するかコメントアウトしてください。新しいバージョンを手動で更新するには、“[Update to a New Version Using Kubernetes Commands](#)” (*SAS Viya Platform Operations: Updating Software Tasks*)を参照してください。

- 1 My SAS(my.sas.com)から、配置されたソフトウェアのオーダーをクリックします。
 - a **ダウンロード**タブをクリックします。**アセットの種類**テーブルの上の行は、リリースケイデンスと、配置する SAS Viya プラットフォームソフトウェアのバージョンを示します。別のバージョンを配置する場合は、ページのリストでそのバージョンを見つけてください。
 - b **アセットの種類**テーブルから**ライセンス**を選択し、**ダウンロード**をクリックしてライセンスファイルダウンロードします。このライセンスファイルは、.jwt 拡張子で識別されます。
- 2 SASDeployment カスタムリソースを作成します。
 - a ライセンスの適用中に SAS Viya プラットフォームが更新されないようにするには、カスタムリソースの updatePolicy フィールドが never に設定されているか、またはケイデンス変数が現在のリリースの値に設定されていることを確認してください。詳細は、“[Manage Updates](#)” (*SAS Viya Platform: Deployment Guide*)を参照してください。
 - b 初期配置で使ったのと同じ命名規則を使用して、.jwt ファイルを\$license ディレクトリに保存します。
 - c コマンドを再実行して、“[Create the SASDeployment Custom Resource](#)” (*SAS Viya Platform: Deployment Guide*)の説明に従って SASDeployment カスタムリソースを作成し、ライセンスオプションで新しいライセンスの名前が指定されていることを確認します。

重要 配置オペレーターは、SAS Viya プラットフォーム配置にパッチ更新を適用する場合があります。これらの更新により、SAS Viya プラットフォーム配置が内部 PostgreSQL を使用している場合、断続的な停止、または予想よりも長い停止が発生する可能性があります。これらのパッチ更新が適用されないようにするには、この手順のリンクにある SASDeployment カスタムリソースを作成する手順に従ってください。

- 3 “[Deployment Using the SAS Viya Platform Deployment Operator](#)” (*SAS Viya Platform: Deployment Guide*)ごとにカスタムリソースを適用します。

注: カスタムリソースを適用する前に、必要なファイルのみが\$deploy ディレクトリに含まれていることを確認してください。たとえば、以前に手動で配置した site.yaml ファイルや、古いまたは重複した kustomization.yaml ファイルは、\$deploy ディレクトリから移動するか、削除する必要があります。潜在エラーの詳細については、“[ライセンス: トラブルシューティング](#)” (12 ページ)を参照してください。

sas-orchestration コマンドを使用した更新

注: このタスクの一部のエLEMENTを実行するには、昇格された Kubernetes 権限が必要です。

- 1 My SAS(my.sas.com)から、配置されたソフトウェアのオーダーをクリックします。
 - a **ダウンロード**タブをクリックします。**アセットの種類**テーブルの上の行は、リリーススケイデンスト、配置する SAS Viya プラットフォームソフトウェアのバージョンを示します。別のバージョンを配置する場合は、ページのリストでそのバージョンを見つけてください。
 - b **アセットの種類**テーブルから**ライセンス**を選択し、**ダウンロード**をクリックしてライセンスファイルダウンロードします。このライセンスファイルは、.jwt 拡張子で識別されます。
- 2 .jwt ファイルを\$deploy ディレクトリに保存します。**\$deploy** ディレクトリの詳細については、[“Retrieve Required Files” \(SAS Viya Platform: Deployment Guide\)](#)を参照してください。
- 3 ソフトウェアを配置します。[“Deployment Using the sas-orchestration Command” \(SAS Viya Platform: Deployment Guide\)](#)を参照してください。

Kubernetes コマンドを使用したアップデート

注: このタスクの一部のエLEMENTを実行するには、昇格された Kubernetes 権限が必要です。

これらの手順では、初期配置アセットで提供されるライセンスが後続のソフトウェア更新に適用されないように、kustomization.yaml ファイルから派生するマニフェストが変更されることに注意してください。

重要 secretGenerator の kustomization.yaml ファイルにライセンスセクションがある場合、そのライセンスは、配置アセットに含まれるライセンスに関係なく使用されます。次回ソフトウェアを更新するときは、更新された配置アセットで提供されるライセンスが使用されるように、必ず kustomization.yaml ファイルを編集してください。

- 1 My SAS(my.sas.com)から、配置されたソフトウェアのオーダーをクリックします。
 - a **ダウンロード**タブをクリックします。**アセットの種類**テーブルの上の行は、リリーススケイデンスト、配置する SAS Viya プラットフォームソフトウェアのバージョンを示します。別のバージョンを配置する場合は、ページのリストでそのバージョンを見つけてください。
 - b **アセットの種類**テーブルから**ライセンス**を選択し、**ダウンロード**をクリックしてライセンスファイルダウンロードします。このライセンスファイルは、.jwt 拡張子で識別されます。
- 2 .jwt ファイルを\$deploy ディレクトリに保存します。**\$deploy** ディレクトリの詳細については、[“Retrieve Required Files” \(SAS Viya Platform: Deployment Guide\)](#)を参照してください。

- 3 配置の作成または更新時に最後に使用された kustomization.yaml ファイルを探します。これは、配置アセットが配置された **\$deploy** ディレクトリに配置されている必要があります。

- a secretGenerator kustomization.yaml ファイルにブロックが存在しない場合、configMapGenerator ブロックの直前に次のコードを追加します:

```
secretGenerator:
- name: sas-license
  type: sas.com/license
  behavior: merge
  files:
  - SAS_LICENSE=new-license-file
```

重要 kustomization.yaml ファイル内に複数の SecretGenerator を保持しないでください。

これらの行はデフォルトの kustomization.yaml に存在しますが、コメント化されています。必要に応じてコメントを外します。このファイルについては、*SAS Viya Platform Deployment Guide* の [Initial kustomization.yaml File](#) トピックで説明されています。

.....

注: secretGenerator ブロックの 2 番目のインスタンスを決して追加しないでください。

.....

- b secretGenerator が kustomization.yaml に存在し、sas-license コンテンツが欠落している場合は、前述の行を secretGenerator ブロックに追加します。ブロックに sas-license コンテンツが含まれている場合は、それが先行する行と一致していることを確認してください。

.....

注: sas-license コンテンツ以外のコンテンツは変更しないでください。

.....

- 4 ソフトウェアを配置します。[“Deployment Using Kubernetes Commands” \(SAS Viya Platform: Deployment Guide\)](#)を参照してください。

viya4-deployment プロジェクトを使用した更新

viya4-deployment プロジェクトを通じてライセンスを更新するには、[SAS Viya プラットフォーム配置の新しいライセンスの適用](#)を参照してください。

Copilot のシークレットを更新

SAS Viya Copilot がアクティブ化されると、SAS Environment Manager でシークレットを更新できます。Copilot を引き続き使用するために、次の状況ではシークレットを更新する必要があります。

- シークレットの有効期限が切れたとき
- 新しいライセンスが配置に適用されたとき
- ライセンスの有効期限が変更されたとき

SAS Environment Manager の SAS Viya Copilot ページの詳細については、“[SAS Viya Copilot ページ](#)” ([SAS Environment Manager: ユーザーガイド](#))を参照してください。

SAS Viya Copilot の認証情報とシークレットの設定の詳細については、“[SAS Viya Copilot の認証情報とシークレットの設定](#)” (7 ページ)を参照してください。

SAS Viya Copilot の認証情報とシークレットの設定

注: SAS は最近、SAS Viya Orders API と対話するシークレット管理テクノロジーを更新しました。SAS Viya Copilot を使用するには、SAS Viya プラットフォームを 2026.04 に更新するか、パッチ更新を適用する必要があります。パッチ更新の更新または適用の詳細については、[SAS Viya Platform Operations: Updating Software Tasks](#) を参照してください。2026 年 4 月より前に認証情報を作成した場合、非推奨になる可能性があります。認証情報が機能しない場合は、認証情報を削除し、次の手順に従って新しい認証情報を追加します。

SAS Viya Copilot を管理するには、SAS 管理者が認証情報を設定する必要があります。認証情報がない場合、または現在の認証情報が無効または期限切れの場合は、この認証情報を設定する必要があります。認証情報は、SAS Viya プラットフォームが SAS Viya Orders API にアクセスできるようにするために、SAS Developer ポータルから取得した API キーを使用して設定されます。SAS Viya Copilot にアクセスできるように API キーとシークレットを構成するには、次の手順に従います。

注: SAS Viya Copilot に関連付けられた SAS オーダーの所有者であるか、SAS 管理者であり、copilot の設定を予定している場合は、[手順 2 \(7 ページ\)](#)に進むことができます。[手順 1 \(7 ページ\)](#)では、SAS オーダーの所有者が SAS 管理者をオーダーに追加して copilot を設定する方法について詳しく説明します。

- 1 [My SAS](#) に移動して、Copilot の認証情報を設定できるユーザーの管理や、SAS Viya Copilot のアクセス管理を行います。
 - a [my.sas.com](#) に移動します。SAS 管理者権限を持つ SAS プロファイルアカウントにサインインするか、作成してください。
 - b **マイオーダー**パネルで SAS Viya 配置と関連付けられた注文を選択します。
 - c **ユーザーの追加**をクリックすると、他のユーザーに認証情報を設定する権限を与えることができます。これらのユーザーは、SAS 管理者権限を持っている必要があります。
- 2 SAS Viya Copilot の設定とアクセスを有効にするようにファイアウォールポートを構成します。詳細は、“[Firewall Ports](#)” ([System Requirements for the SAS Viya Platform](#))を参照してください。
- 3 [SAS Developer Portal](#) にアプリケーションを登録して、API キーを取得します。
 - a [SAS Developer Portal の Apps タブ](#)に移動します。
 - b オーダーに関連付けられた SAS プロファイルを使用してサインインします。

- c **New App** をクリックします。
 - d **Name** フィールドに名前を入力します(例: copilot)。**Description** フィールドに、copilot のシークレットなどの値を入力します。
 - e **Create** をクリックします。
 - f これらのアクションにより、copilot をアクティブ化または非アクティブ化してシークレットを更新できるようにする API キーが生成されます。後で使用できるように、API キーとシークレット値を必ず保存してください。シークレット値は、初期作成時にのみ表示されます。これらの値を保存しない場合は、シークレット値を再生成しなければならない場合があります。
- 4 SAS 管理者として、SAS Environment Manager の認証情報に API キーを保存します。
- a SAS Environment Manager に移動します。
 - b **ドメイン** ページを選択します。**OrdersAPIAuth** ドメインをクリックし、 をクリックして、OrdersAPIAuth ドメインの認証情報にアクセスします。
 - c  をクリックして、新しい認証情報を追加します。
 - d ID の種類の値として **Application** を選択します。

注: SAS Developer Portal から取得した値をエンコードしないでください。認証情報を適切に設定するには、ポータルから取得した正確なクライアント ID 値とクライアントシークレット値を貼り付ける必要があります。SAS では、認証情報を作成する際に、クライアント ID とクライアントシークレットを自動的にエンコードします。

クライアントフィールドに値 **sas.genAiGateway** を使用します。プロパティセクションで、プロパティ名に **SAS_ORDERS_API_CLIENT_ID** と入力し、プロパティ値に API キーからの **クライアント ID** を貼り付けます。シークレットセクションで、シークレット名に **SAS_ORDERS_API_CLIENT_SECRET** と入力し、シークレット値に API キーからの **クライアントシークレット** を 1 つ貼り付けます。SAS Developer Portal は 2 つのシークレットを生成し、どちらのシークレットでも有効な認証情報を作成できますが、認証情報に使用するシークレット値は 1 つだけです。新しい認証情報は次のテーブルのように表示されます。

クライアント	
sas.genAiGateway	

プロパティ名	プロパティ値
SAS_ORDERS_API_CLIENT_ID	API キーのクライアント ID 値

シークレットの名前	シークレットの値
SAS_ORDERS_API_CLIENT_SECRET	API キーのクライアントシークレットのうち 1 つ

- e **保存**をクリックして、認証情報を OrdersAPIAuth ドメインに保存します。

注: 認証情報を編集するときは、copilot を引き続き使用するためにシークレットの値を再度指定する必要があります。

- 5 シークレットの有効期限は 1 年です。SAS では、現在のシークレットの有効期限が切れる前に、リマインダーを設定して新しいシークレットを作成することをお勧めします。SAS はシークレットの有効期限を保存しません。
- 6 次に、SAS Environment Manager の SAS Viya Copilot ページで Copilot をアクティブ化する必要があります。詳細は、“[SAS Viya Copilot ページ](#)” ([SAS Environment Manager: ユーザーガイド](#))を参照してください。

注: SAS Environment Manager のシークレットの更新ボタンは、[SAS Developer Portal](#) から取得したシークレットを自動的に更新しません。そのシークレットは 1 年後に有効期限が切れるため、認証情報を再度設定する必要があります。

ライセンス: ライセンスを表示する方法 (SAS Studio)

SAS プログラミングランタイムライセンス情報の表示

- 1 Web ブラウザーを開き、管理者権限で SAS Studio にサインインします。

次に例を示します。

`https://mysasserver.example.com/SASStudio`

- 2 プログラミング領域で、次のコマンドを入力します。

```
proc setinit; run;
```

- 3  をクリックします。

次のような出力が表示されます。

```

1    %studio_hide_wrapper;
77
78    proc setinit;run;
NOTE: PROCEDURE SETINIT used (Total process time):
      real time          0.00 seconds
      cpu time           0.00 seconds

Original site validation data
Current version: V.04.00M0P080520
Site name:      'BUSINESS ANALYTICS SS AT R S'.
Site number:    70180938.
CPU A: Model name='' model number='' serial=''.
CPU B: Model name='' model number='' serial=''.
CPU C: Model name='' model number='' serial=''.
Expiration: 1SEP2024.
Grace Period:  0 days (ending 1SEP2024).
Warning Period: 15 days (ending 16SEP2024).
System birthday: 14AUG2020.
Operating System:  LIN X64 .
Product expiration dates:
---Base SAS
Software
18AUG2021 (CPU A)
---SAS/
STAT
18AUG2021 (CPU A)

```

SAS Cloud Analytic Services ライセンス情報の表示

- 1 Web ブラウザーを開き、管理者権限で SAS Studio にサインインします。

次に例を示します。

<https://mysasserver.example.com/SASStudio>

ヒント

SAS Studio を実行せずにライセンス情報を取得するには、任意の CAS プログラミング言語クライアントから `getLicenseInfo` アクションを実行します。詳細については、[getLicenseInfo アクション](#)を参照してください。このドキュメントは、SAS Viya プラットフォーム: システムプログラミングガイドにあります。

- 2 **コード**タブで、次のコマンドを入力します:

```
cas casauto;
cas casauto listabout;
```

- 3  をクリックします。

次のような出力が表示されます。

```

1  %studio_hide_wrapper;
77
78  cas casauto;
NOTE: The session CASAUTO connected successfully to Cloud Analytic Services
      controller.sas-cas-server-default.chu-ba-ss.svc.cluster.local using port xxxx. The UUID is
      xxxxx-xxxx-xx-xxxx-xxxxxxx. The user is xxxxx and the active caslib is CASUSER(yyyyy).
NOTE: The SAS option SESSREF was updated with the value CASAUTO.
NOTE: The SAS macro _SESSREF_ was updated with the value CASAUTO.
NOTE: The session is using 0 workers.
79  cas casauto listabout;

Section: About
      CAS = Cloud Analytic Services
      Version = 4.00
      VersionLong = V.04.00M0P08052020
      Copyright = Copyright © 2014-2020 SAS Institute Inc. All Rights Reserved.
      ServerTime = 2020-08-26T21:27:58Z

Section: System
      Hostname = controller.sas-cas-server-default.chu-ba-ss.svc.cluster.local
      OS Name = Linux
      OS Family = LIN X64
      OS Release = 3.10.0-957.1.3.el7.x86_64
      OS Version = #1 SMP Thu Nov 29 14:49:43 UTC 2018
      Model Number = x86_64
      Linux Distribution = Red Hat Enterprise Linux release 8.2 (Ootpa)

Section: license site = BUSINESS ANALYTICS SS AT R S siteNum = 70180938 expires = 1Sep2024:00:00:00
      gracePeriod = 0 warningPeriod = 15 CASHostAccountRequired = OPTIONALNOTE: Request to LISTABOUT
      completed for session CASAUTO.
80
81
82  %studio_hide_wrapper;

```

方法(CLI)

以下の例では、コマンドラインで SAS Viya プラットフォームにすでにサインインしていることを前提としています。[“Command-Line Interface: Instructions when Downloading the CLI” \(SAS Viya Platform: Using the Command-Line Interface\)](#)を参照してください。

例: サイト名、サイト番号、オペレーティングシステム名、リリース番号、サーバーの日付、猶予期間、警告期間などのサイト情報を一覧表示します。

```
sas-viya licenses site-info list
```

例: 名前に Visual Analytics が含まれるシステム内のすべての製品をリストします。

```
sas-viya licenses products list --name-contains "Visual Analytics"
```

例: システム内の有効期限が切れたすべての製品をリストします。

```
sas-viya licenses products list --expired
```

例: 次の識別子を持つシステム内の製品をリストします(827、921、および 985。)

```
sas-viya licenses products list --product-ids 827,921,985
```

例: 現在のライセンスを持つ、配置されている製品の数をリストします。

```
sas-viya licenses count --current
```

例: 猶予期間内にライセンスが適用される SAS Data Connector 製品をリストします。

```
sas-viya licenses data-connectors list --grace
```

関連項目

[“Command-Line Interface: Overview” \(SAS Viya Platform: Using the Command-Line Interface\)](#)

ライセンス: トラブルシューティング

Deployment Operator のカスタムリソースが大きすぎる

Error

SAS Viya Deployment Operator を使用して配置を実行しているときに、SASDeployment カスタムリソースを適用しようとする、次のいずれかのエラーメッセージが表示されます。

```
Error from server (RequestEntityTooLarge)
```

```
The SASDeployment "sas-viya" is invalid: metadata.annotations: Too long: must have at most 262144 bytes
```

Explanation

カスタムリソースを適用するには、サイズ制限を超えないようにする必要があります。

RequestEntityTooLarge と Too long のエラーは、カスタムリソースがその制限を超えたことを示しています。

Resolution

カスタムリソースが作成されると、\$deploy ディレクトリのコンテンツを消費します。カスタムリソースのサイズを最小にするには、必要なファイルだけが\$deploy ディレクトリに含まれるようにします。たとえば、以前に手動で配置した site.yaml ファイルや、古いまたは重複した kustomization.yaml ファイルは、\$deploy ディレクトリから移動するか、削除する必要があります。